

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

地球温暖化や消費者志向の変化の中、農地の集約化により大規模農家を育成し、ドローンの活用等によるスマート農業を推進する。また、寒暖差のある熊本県の気象条件を生かして暖地の天草から寒冷高地の阿蘇地域まで農業人材が通年で米作に従事できるような環境を実現し、生産と流通の一体化による6次産業化、美味しさ、質、価格のバランスを追求し、消費者に喜ばれるリーディング米穀企業を目指す。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)	
☑ 環境	農地の集約化による土地活用型の大規模農家の育成支援(米作10ha以上)	項目	米作10ha以上の大規模農家戸数
☑ 社会		現状(2024年)	更新時(3年後)
☑ 経済		6戸	10戸
☑ 環境	スマート農業の推進(ドローンの普及・活用による農薬・肥料散布面積の拡大)	項目	ドローンによる農薬・肥料散布面積
☐ 社会		現状(2024年)	更新時(3年後)
☑ 経済		40ha	60ha
☑ 環境	気象条件の違いを生かして農業人材の通年稼働を目指した農地、機械、労働力の効率運用受託の推進	項目	受託面積
☑ 社会		現状(2024年)	更新時(3年後)
☑ 経済		0ha	10ha

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、それを評価するための指標項目と、現状の数値および更新時(3年後)の数値目標を記載してください。前期と同じ取組みの場合は、現状の数値と下記の前期実績が一致しているかをご確認ください。

<パートナーシップ>

米麦集荷業者として、関係の深い農家、肥料・農薬メーカー、取引業者、地域、行政等と連携を深め、信用、信頼をさらに高めていくとともに、会社内においては、社員の働く環境の改善を図り、一丸となって生産者と消費者の蝶つがいの役割を進化・発展させていく。

・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標に係るこれまでの進捗状況>

三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	農地の集約化による土地活用型の大規模農家の育成支援(米作10ha以上)	2021年5戸→2024年10戸
	進捗状況(実施状況および達成・未達成状況、未達成の場合理由記載)	前期の指標に対する実績
	想定以上の農家の高齢化と離農者の増加、米価の低下等による生産意欲の低下等で農地の集約化が進まず未達となった。	2024年6戸
三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
☑ 環境 ☐ 社会 ☑ 経済	スマート農業の推進(ドローンの普及・活用による農薬・肥料散布面積の拡大)	2021年22ha→2024年50ha
	進捗状況(実施状況および達成・未達成状況、未達成の場合理由記載)	前期の指標に対する実績
	温暖化による高温化等によりドローンによる農薬散布が増えたが、その効能について今一つ理解が得られず、拡大が遅れ未達となった。	2024年40ha
三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	気象条件の違いを生かして農業人材の通年稼働を目指した農地、機械、労働力の効率運用	2021年受託農地0ha→2024年受託農地30ha
	進捗状況(実施状況および達成・未達成状況、未達成の場合理由記載)	前期の指標に対する実績
	農家に対する説明不足、新たなことにチャレンジする農家の意識の低さ、想像以上に農業地域の水の利用等の慣習の違い等もあり未達となった。	2024年受託農地0ha

・「三側面」、「前期のSDGsに関する重点的な取組み」と「前期の指標」には、前回登録申請した際に記載した「三側面」、「SDGsに関する重点的な取組み」と「指標」をそのまま転記してください。
・「取組みの進捗状況」には、前期の重点的な取組みの実施状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。
・「前期の指標に対する実績」には、「前期の指標(数値目標)」に対する実績を数値を用いて記載してください。
※提出前に全てセルが青色から白色に変更になっているかをご確認ください。